

慰霊祭 生徒代表挨拶

「今から七十六年前、かつて見たことのない戦争が繰り広げられ、山河や草木、歴史や伝統が荒れ果ててしまった。」

那覇高校 校歌一番にあるように、ここ沖縄で住民を巻き込んだ苛烈な地上戦が繰り広げられました。鉄の暴風と呼ばれる激しい空襲や艦砲射撃、集団自決など今となっては考えられない出来事が数多く起き、二十万人もの尊い命が失われました。その中には学生の命も含まれており、二中の先輩方も二百名近くが犠牲となりました。学業半ばで犠牲となった先輩方の気持ちは、とても無念であったと思います。今日を迎えるのにあたって、亡くなってしまった方々の気持ち、今ある私たちの暮らしが多くくの尊い命の犠牲の上にあることに対して思いを馳せずにはいられません。

このような惨禍を乗り越えた先輩方は、力を合わせて復興し、現在の沖縄をつくり上げてこられたと思います。また同時に、沖縄戦を風化させないよう、つらい記憶の中を引き出し、それぞれの体験談を私たちに語り続けてこられたと思います。このような先輩方の努力が、今日行われている二中健児の塔慰霊祭や、学校での平和学習などにつながっていると思います。

那覇高校でも毎年慰霊の日を迎えるのに合わせて「平和学習」が行われています。そこで私は、普段通っているこの学び舎の歴史が、沖縄戦

を乗り越え、平和への想いを抱いた多くの先輩方が支えあつて始まったものと知り、ここで学べていることのありがたみと、那覇高生としての誇りを感じることができました。

しかし同時に、沖縄戦を過去の出来事のように感じていた自分に恥を感じ、この「平和学習」を通して、「慰霊の日」をどのように受けとめ、行動しなければならぬか、考えるきっかけにもなりました。

現代の世の中には、学校に行ける、友達と遊べる、ご飯が食べられるなど当たり前と感じる出来事があふれています。しかし、これらすべては決して当たり前のことではありません。沖縄戦から立ち上がった人々の努力によつて成り立っているのです。このことを、当たり前と感じてしまうことは、一つの大きな問題であると思います。また、沖縄の米軍基地問題、昨今の新型コロナウイルス、人種差別などの問題も、身の回りに存在しています。これらの問題に関心を持ち、解決策や意見を探し続け、真の「平和」とは何か発信していくことが、戦後の今を生きる私たちに託された使命であると思います。

戦後七十六年の今、私たちにできることは何か、もう一度見つめ直し、平和の「発信者」として行動していきたいと思えます。また那覇高生として、学業半ばで犠牲になった先輩方がいることを忘れず、今勉学に取り組むことができることに感謝し、日々の学校生活を大切に過ごしていきたいと思えます。

最後に謹んで、二中の塔に祀られている方々のご冥福をお祈りいたし

ますとともに、沖縄戦の歴史を語り継ぎ、これからも平和を希求し続けることを誓いまして、誓いの言葉とさせていただきます。

令和三年 六月二十三日 那覇高校生徒会長 金城秀哉